

Lilly

ヒューマペン[®] サビオ[®] の使い方

患者さん向け

クイックガイド

監修 新潟薬科大学 臨床薬学研究室 教授 朝倉 俊成



ヒューマペン[®] サビオ[®] のくわしい使い方については取扱説明書をご参考ください。

インスリンペン型注入器

ヒューマペン[®] サビオ[®]

高度管理医療機器

TEL

日本イーライリリー
医薬情報問合せ窓口

リリーアンswers

Lilly Answers

www.lillyanswers.jp

弊社の自己注射用注入器のご使用に関するお問合せなどがございましたら、お気軽にお電話ください。

0120-245-970 ※1
078-242-3499 ※2

〈当社製品に関するお問合せ〉受付時間 月曜日～金曜日8:45～17:30 ※3

〈当社注入器に関するお問合せ〉受付時間 月曜日～土曜日8:45～22:00

(上記時間外は音声ガイダンスにて対応しています)

※1 通話料は無料です。携帯電話、PHSからもご利用いただけます。 ※2 フリーダイヤルでの接続が出来ない場合、このお電話番号にお掛けください。尚、通話料はお客様負担となります。
※3 祝祭日及び当社休日を除きます。

WEB

糖尿病情報提供サイト

Diabetes.co.jp

www.diabetes.co.jp

弊社糖尿病情報提供サイトDiabetes.co.jpは患者さんとご家族をサポートする情報を多数ご用意しております。

注射の準備の前に

■ 注射の準備の前には手を洗いましょう。



注射の前によく手を洗い、
汚れた手で触らないことが大切です。

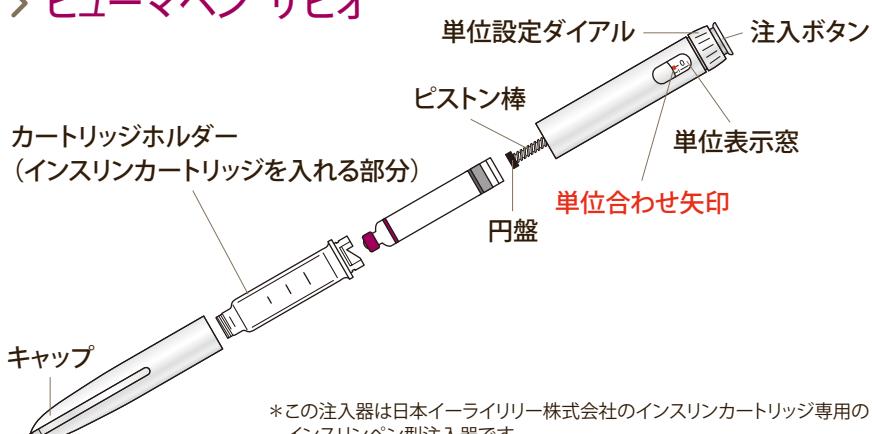
■ 製剤の種類・状態を確認しましょう。

（インスリンカートリッジについて以下のことを確認してください）

- ・インスリンの種類が主治医から指示されたものである
- ・使用期限を超えていない
- ・外観に異常がない
- ・ひび割れや破損がない

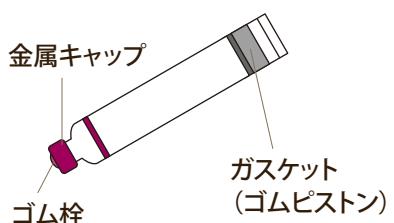
■ インスリンペン型注入器・製剤の特徴と各部の名称

› ヒューマペン®サビオ®*

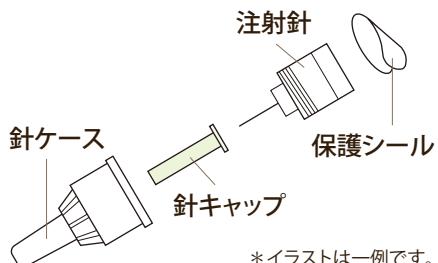


*この注入器は日本イーライリリー株式会社のインスリンカートリッジ専用の
インスリンペン型注入器です。

› インスリンカートリッジ



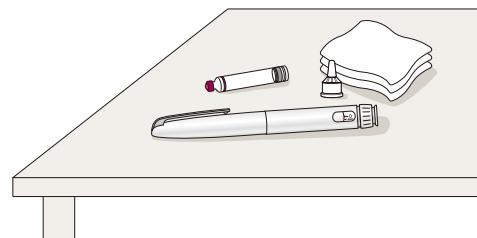
› 注射針*



*イラストは一例です。

› 用意するもの

- ・ヒューマペン®サビオ®
- ・イーライリリーの
インスリンカートリッジ
- ・新しい注射針
- ・アルコール綿



*ヒューマペン®サビオ®、インスリンカートリッジが
転がらないようにご注意ください。

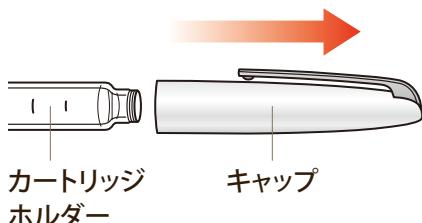
ヒューマペン®サビオ®
高度管理医療機器

229AABZX00046000

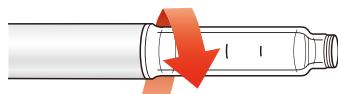


カートリッジの装着

- ① キャップを引っ張って外します。



- ② カートリッジホルダーを矢印方向に回し、取り外します。



※この時、ピストン棒や円盤にはさわらないようにしてください。ピストン棒が破損したり、円盤が外れたりする場合があります。

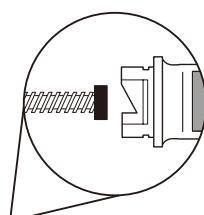
※ピストン棒を押し込んだり、引っ張ったりしないでください。

- ③ インスリンカートリッジの細い方を先にして装着します。



- ④ ピストン棒が本体から出ている場合は、インスリンカートリッジのガスケット(ゴムピストン)をピストン棒の先端の円盤に押し当てて、ピストン棒をゆっくりと押し戻してください。

ピストン棒が出ていない場合には、そのままカートリッジホルダーを取り付けてください。

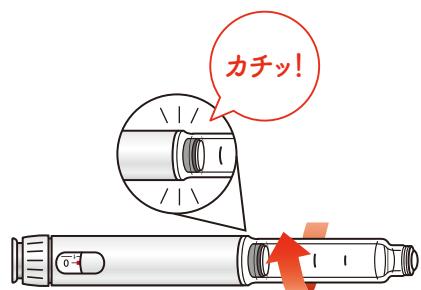


※円盤には手を触れないでください。また、ピストン棒は引っ張らないでください。

※ピストン棒が図のように出ていないことがあります。異常ではありません。
そのままカートリッジを入れたカートリッジホルダーを本体に取り付けてください。

※カートリッジホルダーからインスリンカートリッジが落ち出でこないようにご注意ください。

- ⑤ カートリッジホルダーをペン本体に矢印方向に回してまっすぐ押し付け、カチッと止まるところまでしっかりと取り付けます。



〈懸濁したインスリンを使用する場合〉

インスリンの準備

➡➡➡ インスリン製剤の種類、使用期限、状態を確認してください。

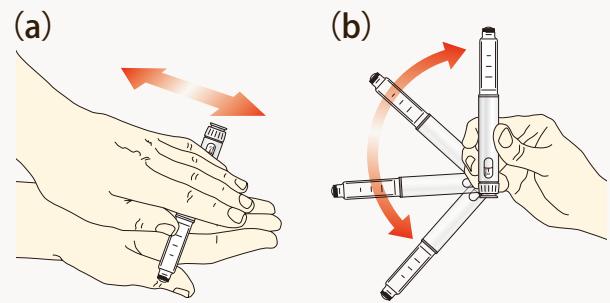
懸濁した(白く濁った)製剤(ヒューマログ®ミックス25注カート、ヒューマログ®ミックス50注カート、ヒューマリン®N注カート、ヒューマリン®3/7注カート)をご使用の場合

まず、ペン本体を手のひらでゆっくり10回以上転がし(a)、
次にインスリンが均一に混ざるまで
10回以上振ってください(b)。

※十分に混ざったか確認し、不十分の場合は、くり返してください。

※透明なインスリン(ヒューマログ®注カート、インスリン グラルギンBS注カート「リリー」、ヒューマリン®R注カート)の場合は、この操作を行う必要はありません。

※懸濁したインスリン製剤には、よく混ざるようにガラスビーズが入っていますので、
ガラスビーズが動くように勢いよく振ってください。



注射針の取付け

>>> 注射のたびに新しい注射針をご使用ください。

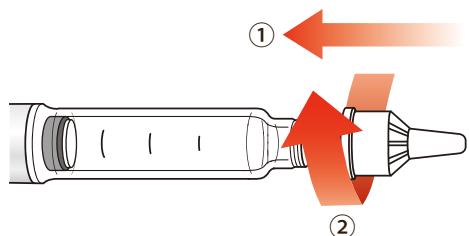
- 1 固く絞ったアルコール綿でインスリンカートリッジの先端のゴム栓をていねいに拭きます。



- 2 注射針の保護シールをはがします。

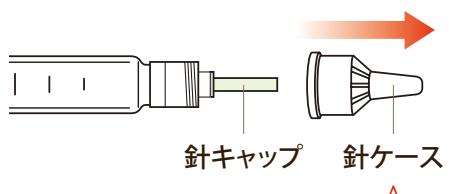


- 3 注射針をカートリッジホルダーにまっすぐ押し当て(①)、矢印方向に回してしっかりと取り付けます(②)。



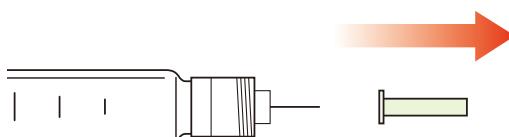
カートリッジホルダーを持ちながら、「注射針の取付け」を行ってください。

- 4 針ケースをまっすぐ引っ張り取り外します。



針ケースは捨てない (注射後、針外しに使用)

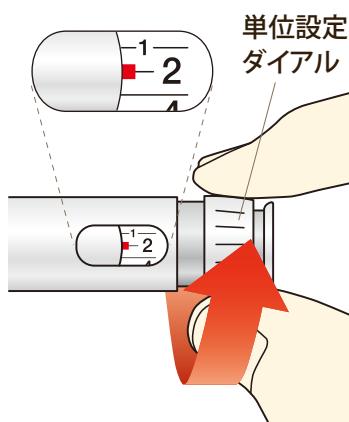
- 5 針キャップをまっすぐ引っ張り取り外し、そのまま廃棄してください。



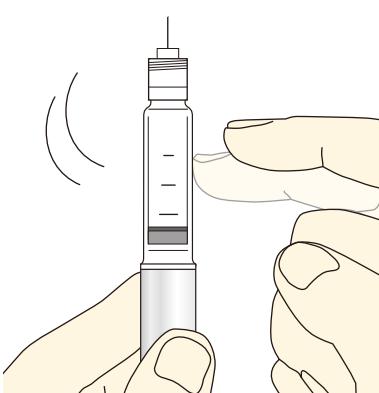
空打ち

>>> 空打ちは、空気抜きを行い、また注射針の先からインスリンが流れ出ることで注射ができるかを確認するための大切な操作です。

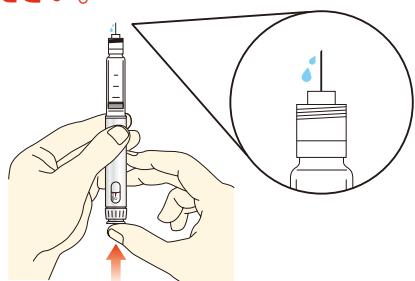
- 1 単位設定ダイアルを回して「2」単位に合わせます。



- 2 注射針を上に向けてペン本体を持ち、カートリッジを軽く指ではじいて空気を上方に集めてください。



- 3 注入ボタンを押したまま5秒以上待ち、針先からインスリンが出ることを確認した後、インスリンが出なくなるまで押し続けてください。

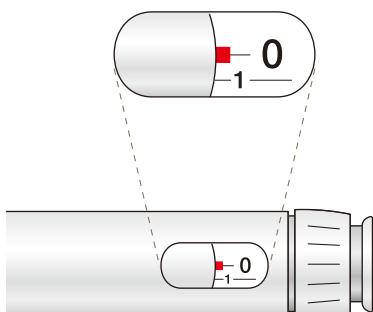


もしも針先からインスリンが流れ出てこない場合には、流れ出てくるまで「2」単位に合わせ、同じ操作を繰り返してください。

カートリッジ内に小さな気泡が見られることがあります。問題はありません。また、空打ちの際に出るインスリンの量は、気泡の量などによって変動しますが、このとき、インスリンが出てくることを確認できれば、引き続いて行う注射の投与量に影響はありません。

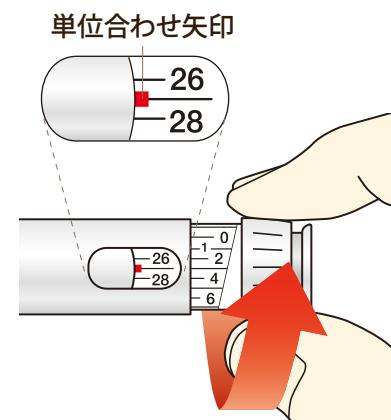
単位の設定

- 1 単位表示窓の表示が「0」になっていることを確認してください。



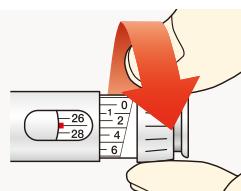
- 2 指示された単位が単位合わせ矢印のとなり（単位表示窓の中心）に表示されるまで、単位設定ダイアルを矢印方向に回します。

図は一例として27単位に設定した場合です。主治医から指示された単位数を設定してください。



単位の設定の時、間違えて単位を多く設定してしまった場合

指示された単位が単位表示窓の中心に表示されるまで、単位設定ダイアルを矢印の方向に回してください。



一例：27単位に設定すべきところ、間違えて28単位まで回した場合、矢印の方向に1つ戻し、27単位に設定してください。

※一旦「0」まで戻すといった操作は不要です。

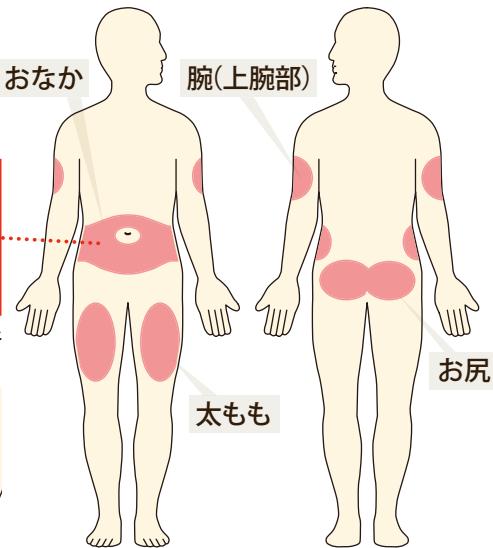
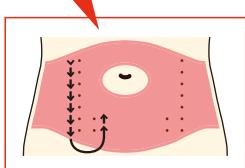
注射

>>> インスリンを注射する場所は毎回変えましょう。

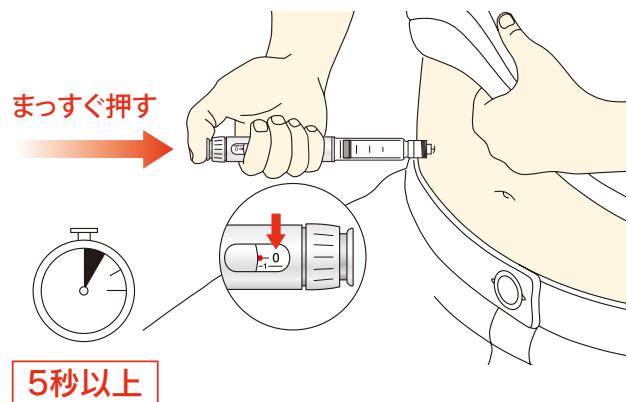
- 1 注射する場所を消毒します。

インスリンの注射部位

注射する場所は毎回2~3センチずらしましょう



- 2 注射針を皮膚にさします。親指で注入ボタンを最後まで押し込み、単位表示窓の表示が「0」になっていることを確認します。そして、そのまま5秒以上待ち、注入ボタンを押したまま注射針を抜きます。



注意 注入が重く感じられる場合は、ゆっくり行うようにしてください。

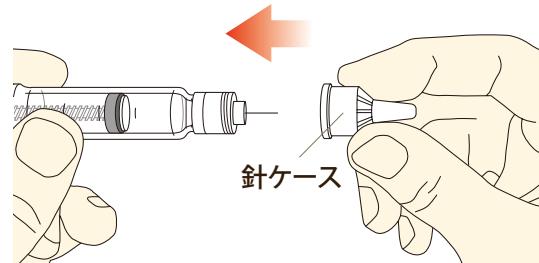
注射の部位および注射するタイミングは主治医の指示に従ってください。

後片付け

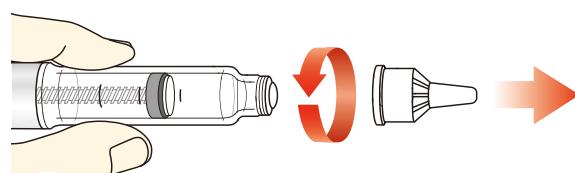
>>> 必ず注射針を取り外してください。

- ① 注射針で指をささないように注意して
針ケースを取り付けます。**

※このとき、針キャップは使用しません。

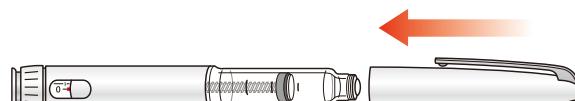


- ② カートリッジホルダーを持ちながら、
針ケースを矢印方向に回して注射針を
取り外します。**



取り外した注射針は医療従事者の指示に従って捨ててください。

- ③ キャップを付けて
30°C以下の室温で保管します。**

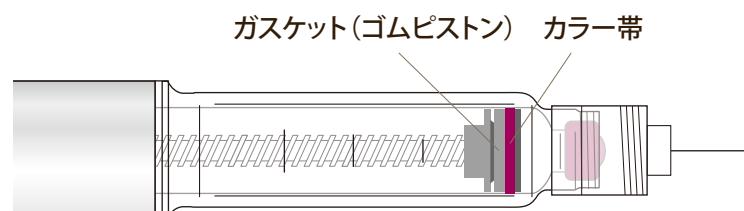


インスリンカートリッジの交換

交換時期の見分け方

インスリンカートリッジのカラー帯にガスケット（ゴムピストン）の先端がかかるついたら、新しいカートリッジに交換してください。

※ヒューマペン®サビオ®は使用開始後3年間ご使用いただけます。ただし、それ以前に個装箱に表示された使用期限に達した場合には、その日が使用終了日となりますので、その時点で新しいヒューマペン®サビオ®に交換してください。



およそ目安：180 120 60 (単位/mL)

※上記の数値はあくまでも目安であり、単位設定にはご使用いただけません。

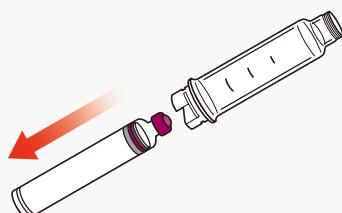
交換の仕方

カートリッジホルダーの取外し



インスリンカートリッジが空になったら注射針を取り外し、カートリッジホルダーを矢印の方向に回して、ペン本体から取り外してください。

空のインスリンカートリッジの取出し



カートリッジホルダーを傾けて、空になったインスリンカートリッジを取り出してください。

新しいインスリンカートリッジの取付け



新しいカートリッジにひび割れ、破損や汚れがないことを確認してください。イライライリーのインスリンカートリッジの細い方を先にして、カートリッジホルダーに入れしてください。

ヒューマペン®サビオ®のご使用に際して

カートリッジの装着

Q&A カートリッジの装着についてよくある質問

Q カートリッジホルダーが取り付けできない時はどうしたらいいのですか？

A インスリンカートリッジがカートリッジホルダーに正しく入っていることを確認してください。次にカートリッジホルダーをペン本体にまっすぐに押し付けます。カートリッジホルダーをカチッと止まるところまでしっかりと回してペン本体に取り付けてください。

空打ち

⚠ 使用上の注意

空打ちは注射のたびに必ず行ってください。空打ちの際、注射針の先からインスリンが出ることを確認してください。正確な量のインスリンを投与していただくために必要です。

Q&A 空打ちについてよくある質問

Q 注射の前に必ず空打ちしないといけないのはどうしてですか？

A ・空打ちは正しく注射ができる事を確認するための大切な操作です。
・空打ちによって、通常の使用中に注射針やインスリンカートリッジ内にたまりやすい気泡を取り除くことができます。
空打ちを行わなかった場合、正確な量のインスリンを注射できないおそれがあります。空打ちによって、ペンと注射針が正しく作動することが確認できます。空打ちが正しく行われると、インスリンが針先から出てきます。インスリンが針先から出てこない場合は、インスリンが出てくるまで空打ちを繰り返してください。

注 射

Q&A 注射についてよくある質問

Q 注射をする時に注入が重く感じるのはどうしてですか？

A ・注射針が詰まっているかもしれません。新しい注射針に交換し、空打ちを行ってください。
・親指を注入ボタンの上に置いて、単位設定ダイアルに触れないようにしてください。
・注入ボタンを強く押した場合には、注入が重く感じることがあります。注入ボタンをゆっくりと上からまっすぐ押してください。
・注入ボタンを押す力は注射針の種類によって異なります。どの注射針を使うかは、主治医にご相談ください。

Q 主治医から指示された設定量まで単位設定ダイアルが回らない時はどうしたらいいですか？

A ヒューマペン®サビオ®は、インスリンカートリッジの残量を超えて単位設定できないようにデザインされています。例えば、指示された量が31単位で、残量が25単位しかない場合は、25単位を超える単位は設定できません。無理に単位設定ダイアルを回さないでください。インスリン残量が指示された単位より少ない場合は、下記のどちらかの方法で注射をしてください。

・設定できる単位まで注射し、新しいインスリンカートリッジに交換して不足分を注射してください。

又は

・新しいインスリンカートリッジに交換してから指示された全量を注射してください。

上記の操作方法で問題が解決されない場合には、主治医にご相談のうえ、新しいヒューマペン®サビオ®に交換してください。インスリン、食べ物、飲み物、その他の異物がペン本体に入った場合、注入ボタンが押しにくくなることがあります。取扱説明書の「保管と手入れ」の指示に従い、清潔に保ってください。

ヒューマペン®サビオ®のご使用に際して、ご質問やご不明な点がある場合には、主治医にご相談いただくか、弊社医薬情報問合せ窓口「リリーアンサー」までお問い合わせください。

低血糖

症状：冷汗・動悸(どうき)・手指のふるえ・ぼーとする・目がかすむ・強い倦怠感(だるさ)など

原因：食事をせずにインスリンを注射した、インスリンの設定量を間違えた、食事量が少ない又は食事の時間が遅れた、運動量が多すぎた、又は空腹時に激しい運動をしたなど

処置：①運転中なら、すぐに車を停める ②すぐに糖分*を補給する

*治まつたら再発予防に、次の食事がすぐの時は食事にするか、そうでなければ炭水化物の多い食品を160カロリー程度とります。

参考：補給する糖分の例

- ブドウ糖：10～20g
- 砂糖：10～20g
- ブドウ糖を含む清涼飲料水：150～200mL

(α -グルコシダーゼ阻害薬*を併用している場合は、必ずブドウ糖を補給する
(α -グルコシダーゼ阻害薬は砂糖の吸収を遅らせてしまいます)

*ボグリポース(商品名：ベイスン等) アカルボース(商品名：グルコバイ等) ミグリトール(商品名：セイブル)

低血糖による典型的な症状

冷 汗

動 悸

手指のふるえ

シックデイ

シックデイとは「病気の日」の意味で、発熱や食欲不振、下痢、けがなどで体調を崩している日のことをいいます。

シックデイのときは食事をしていなくても、血糖値が上がりやすくなっていますので、下記の点に注意してください。

◆自己判断でインスリンの注射を中止せず、主治医の判断に従ってください。

◆場合によっては、インスリン量の調整が必要です。あらかじめ、主治医と対応を相談しておきましょう。

保 管

インスリン製剤は医薬品ですので、いつも清潔に扱いましょう。

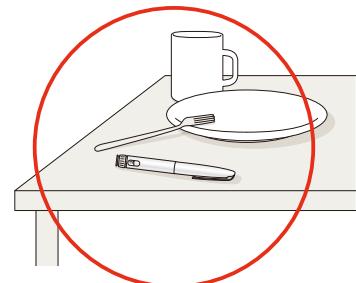
保管するとき

清潔に保管しましょう。注射針は必ず外し、遮光や破損防止のため必ずキャップを付けて保管ください。

●キャップ、ペン本体及びケースが汚れた時は、水を固く絞った柔らかい布で拭いてください。

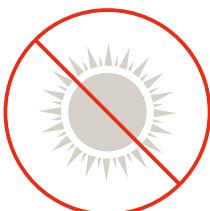
●ペン本体や単位表示窓に、アルコール、オキシドール、漂白剤を使用しないでください。

また、液体をかけたり、潤滑油をさしたりしないでください。故障の原因となります。



使用開始後は、室温(30°C以下)で保管します。

※インスリンカートリッジ：使用開始前は、凍結を避け、冷蔵庫(2°C～8°C)で保存してください。



高温や直射日光は
避けてください。



冷蔵庫に入れないで
ください。



注射針を取り付けたまま
保管しないでください。



食べ物、飲み物、砂やほこりが
入らないようにしてください。

※インスリンの保管にあたっては、インスリンカートリッジに添付されている「インスリンのカートリッジ製剤を注射される方へ」又は
「インスリン グラルギンBS注カート「リリー」を注射される方へ」もよくお読みになり、その指示に従ってください。

※2種類のインスリンペン型注入器(例：2本の色の違うヒューマペン®サビオ®等)を使用する際は、ペンとキャップの色を確認し、
キャップのはめ間違いにご注意ください。